

## URBIO2010 の開催に向けた連携の呼びかけ

2010年10月、生物多様性条約に関するCOP10が、名古屋で開催されることは周知のとおりです。生物多様性の維持や生態系の保全・修復に係る研究を展開してきている学会としては、COP10に関連する研究成果を国際的に公表する場を設け、生物多様性を維持・向上していくための道筋をアピールしていく必要があります。日本景観生態学会としては、その実現手段としてのURBIO (Urban Biodiversity and Design) を、日本内外の関連諸学協会・諸機関との緩やかな連携のもとで開催したく、皆様に呼びかけを行うものです。

URBIO2008は2008年のドイツでのCOP9にあわせてエルフルトで開催された国際会議で、都市建築・造園系の研究者・実務家と生態学研究者が集まって情報を共有し、都市の生物多様性の保全・再生・維持のあり方を検討するものでした (<http://www.urbio2008.com/index.html>)。世界各地から300名程度の参加を得て開催された本会議の成果は、「エルフルト宣言, URBIO2008」として国際市長会議で紹介されました。実行母体となったのはCOUTUREC (the Competence Network Urban Ecology; 都市生態系知識ネットワーク)で、ヨーロッパ内でUrban Ecologyに関連した活動を行っている組織の緩やかな連合体です。

日本でのURBIO開催のメリットは、こうした研究者ネットワークを最大限に利用できることです。これに国内やアジアにある潜在的なネットワークを加えることで、国内外の研究者が参集する場を効率的・効果的に創出することができます。

主テーマは、皆様との議論の中で決定していきたいと思いますが、日本では、生物多様性国家戦略で里地里山の保全・再生が掲げられ、里山イニシアティブを発信していこうとしていること、また、国連大学による里山里海サブグローバルアセスメントのプロジェクトも進行していることなどから、対象を都市のみにとどめることなく、里地里山についても議論できる枠を作る必要があると考えています。

URBIO2010で発表される研究成果は、Landscape and Ecological Engineering (Springer)等の国際誌で公表する機会をつくっていきたいと思います。また、URBIOの日本での開催には、COP10開催地である名古屋市も強い関心を示していて、前回のURBIO2008と同様に、URBIO2010の成果を国際市長会議においてアピールできる可能性もあります。

URBIO2010の開催に向けて、行政や各種助成団体等にも積極的にアプローチし、資金援助等も含めてより充実した会議の実現を追求していきたいと考えています。

生物多様性の維持・向上を通して持続可能社会に向けた研究活動等を実践されている国内諸学協会・機関等や、ICLEEを中心とするアジア諸学会、また、ヨーロッパのCOUTUREC等と連携してURBIO2010を開催し、生物多様性条約の理念の社会への浸透に貢献し、また、研究成果に基づく具体的な道筋を提案していければと思います。実現に向けてご賛同いただける学協会・機関等の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

URBIO2010 実行委員会